

日本電子(株)決算説明会

JEOL

(Japan Electron Optics Laboratory)



2003年5月30日

Contents

2002年度の状況を踏まえてのBP1000の位置付け

代表取締役会長兼CEO 江藤 輝一

2003年3月期決算の概要と今後の業績予想

専務取締役 大塚 東

2002年度の総括

2003年度の経営基本方針と重点施策

代表取締役社長兼COO 原田 嘉晏

司会進行 取締役経営戦略室長 松浦 文康

2002年度の状況を踏まえての BP1000の位置付け

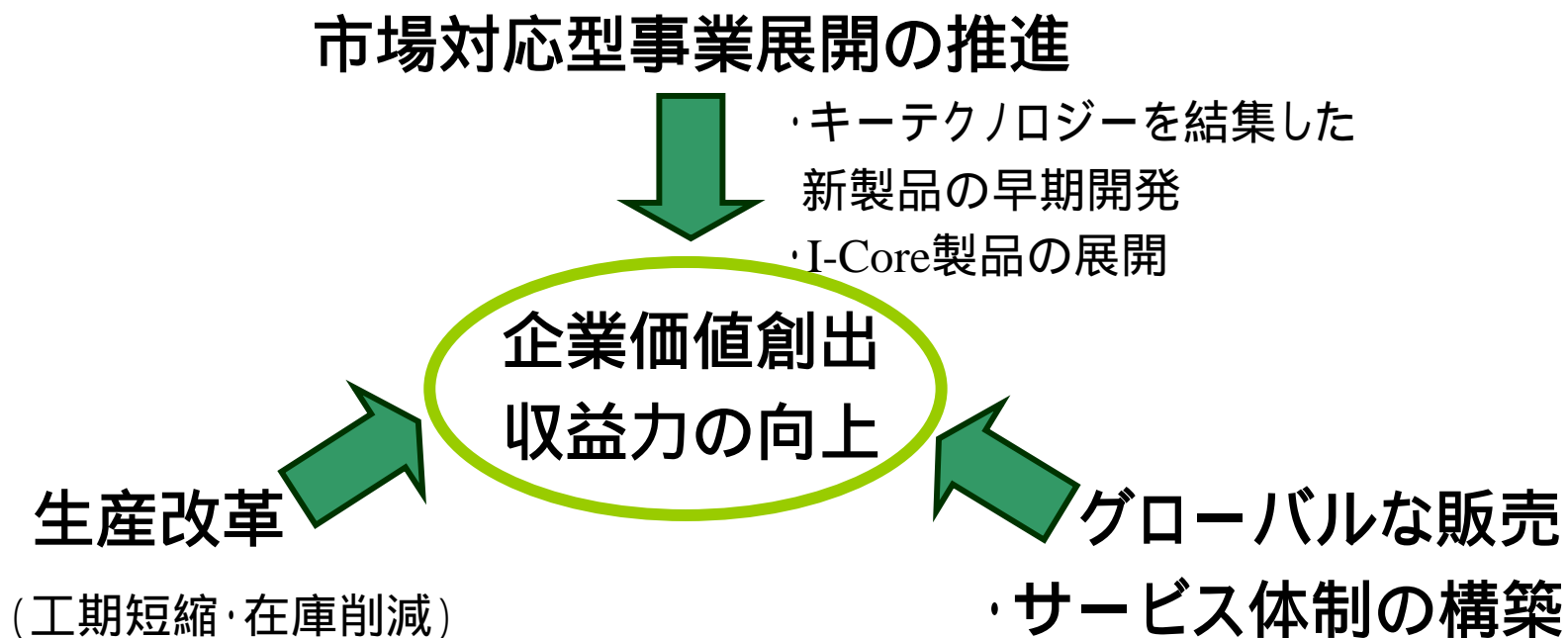
2003.5.30

JEOL 日本電子株式会社
代表取締役会長兼CEO 江藤 輝一

➤ グループ経営ビジョン



➤ 中期経営計画 **Bright Plan 1000** (2001fy ~ 2003fy)



(単位:百万円)

	2001FY実績	2002FY実績	2003FY計画	BP1000計画
売上高	82,698	82,833	87,000	100,000
経常利益	2,585	44	1,400	5,000
当期純利益	1,158	950	700	

1. BP1000の事業目標は棚上げ
2. BP1000の基本戦略は着実に実行している
3. 基本戦略に沿った諸施策の成果は出ているが、市場の変化に対応しきれていない
4. 2003年度は、改革のスピードを上げ、諸施策の実効性を高め、JEOLグループサバイバル・プログラム(JSP)を展開
5. BP1000の構造改革の成果を踏まえ、次期の新中期経営計画を策定中

2003年3月期決算概要と 今後の業績予想

専務取締役 大塚 東

2003年3月期連結決算実績

(単位:百万円)

	2003年3月期		2002年3月期		増減
	金額	売上高比(%)	金額	売上高比(%)	
売上高	82,833	100.0	82,698	100.0	135
販売管理費	20,757	25.0	19,962	24.1	795
営業利益	546	0.7	3,416	4.1	2,870
経常利益	44	0.1	2,585	3.1	2,541
当期純利益	950	1.1	1,158	1.4	2,108
設備投資額	2,157	2.6	3,889	4.7	1,732
減価償却費	2,216	2.7	1,890	2.3	326
研究開発費	4,235	5.1	5,019	6.1	784
R O E (%)	4.7		5.9		
R O A (%)	1.1		1.3		
US\$為替レート(円)	120.26		124.31		

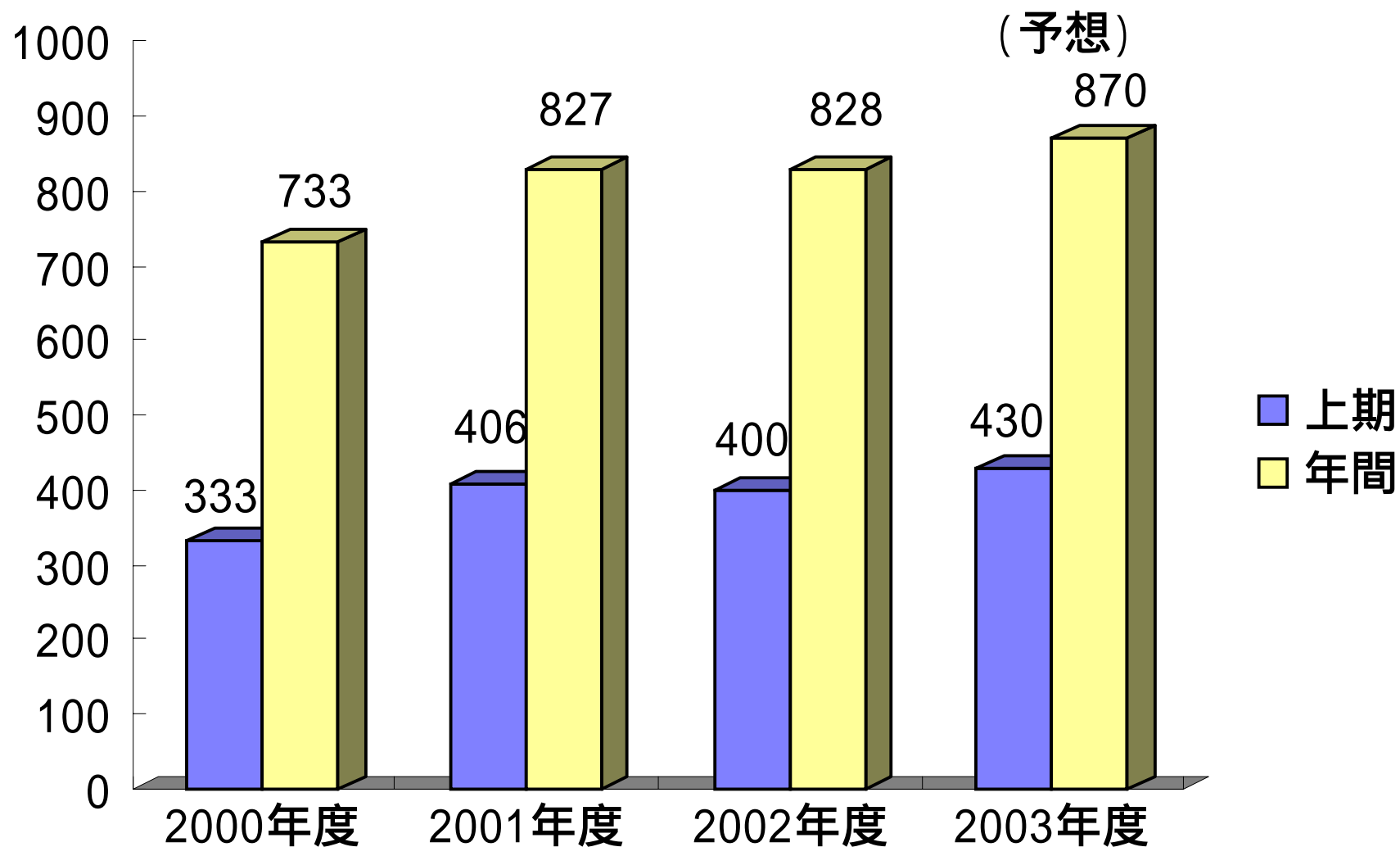
2004年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	2004年3月期(予想)		2003年3月期(実績)		増 減
	金 額	売上高比(%)	金 額	売上高比(%)	
売 上 高	87,000	100.0	82,833	100.0	4,167
販 売 管 理 費	20,700	23.8	20,757	25.0	57
営 業 利 益	2,000	2.3	546	0.7	1,454
経 常 利 益	1,400	1.6	44	0.1	1,356
当 期 純 利 益	700	0.8	950	1.1	1,650
設 備 投 資 額	2,000	2.3	2,157	2.6	157
減 価 償 却 費	2,200	2.5	2,216	2.7	16
研 究 開 発 費	4,500	5.2	4,235	5.1	265
R O E (%)	3.5		4.7		
R O A (%)	0.8		1.1		
US \$ 為替レート(円)	120		120.26		

売上高(連結)

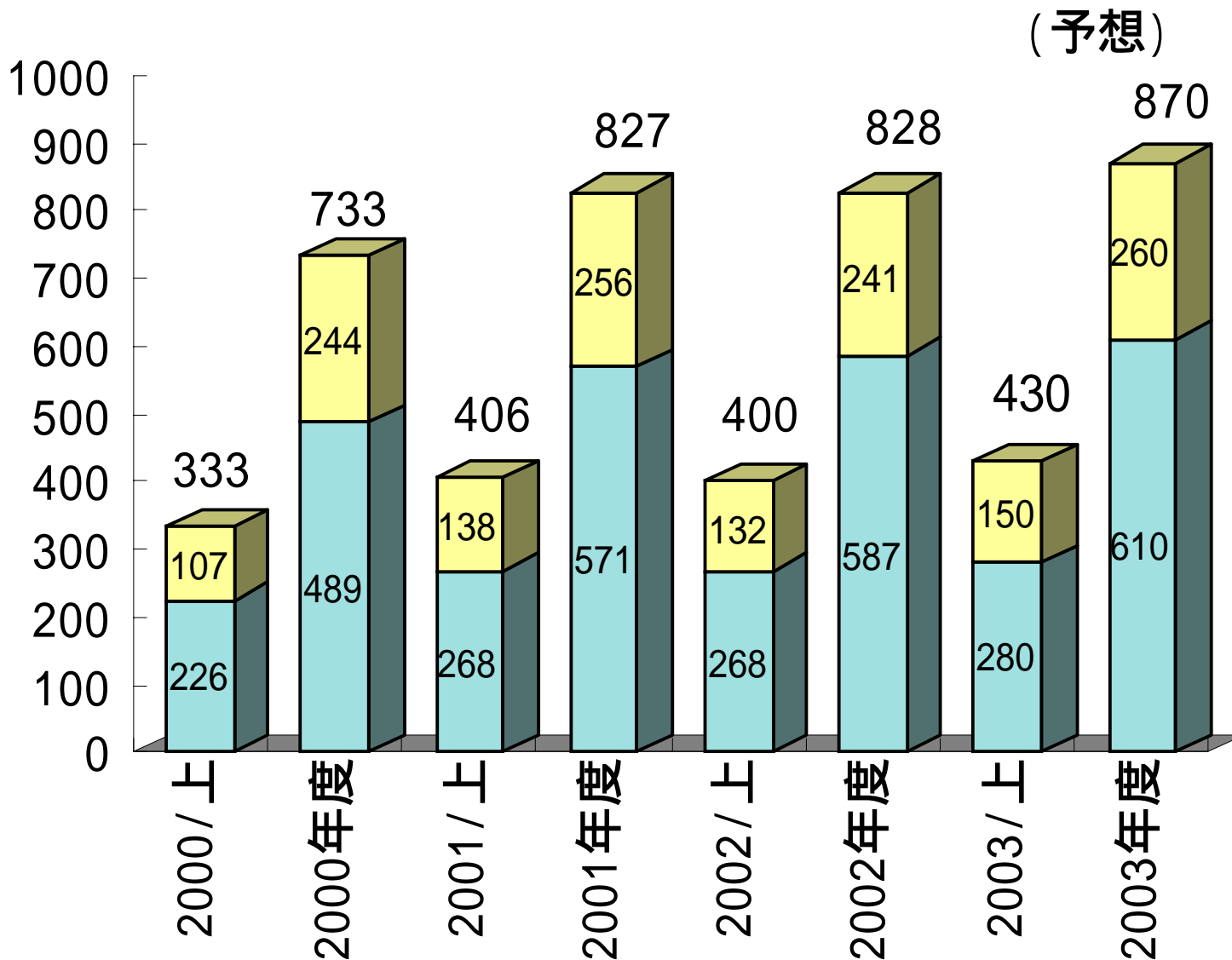
億円



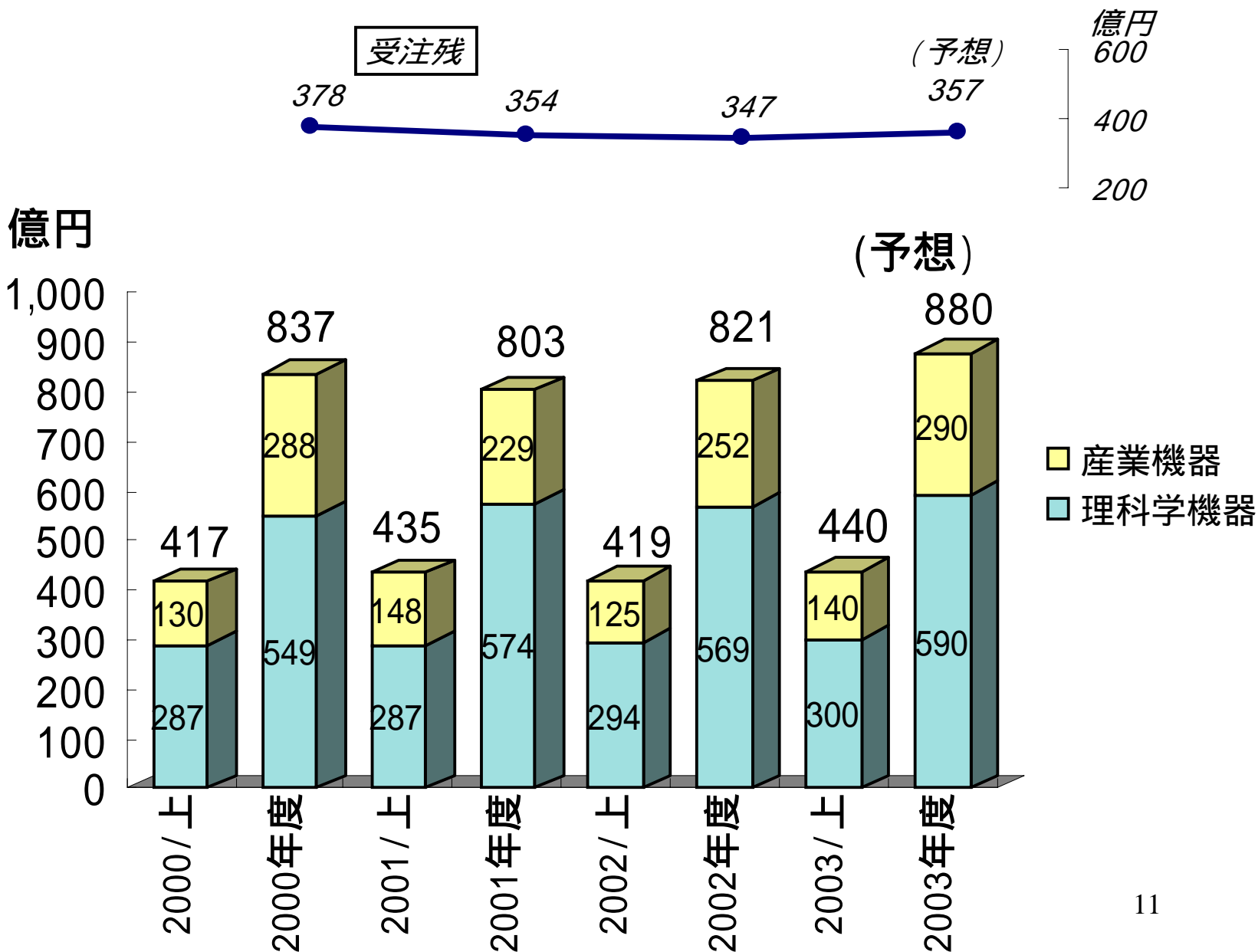
事業の種類別売上高(連結)

- 産業機器
- 理科学機器

億円

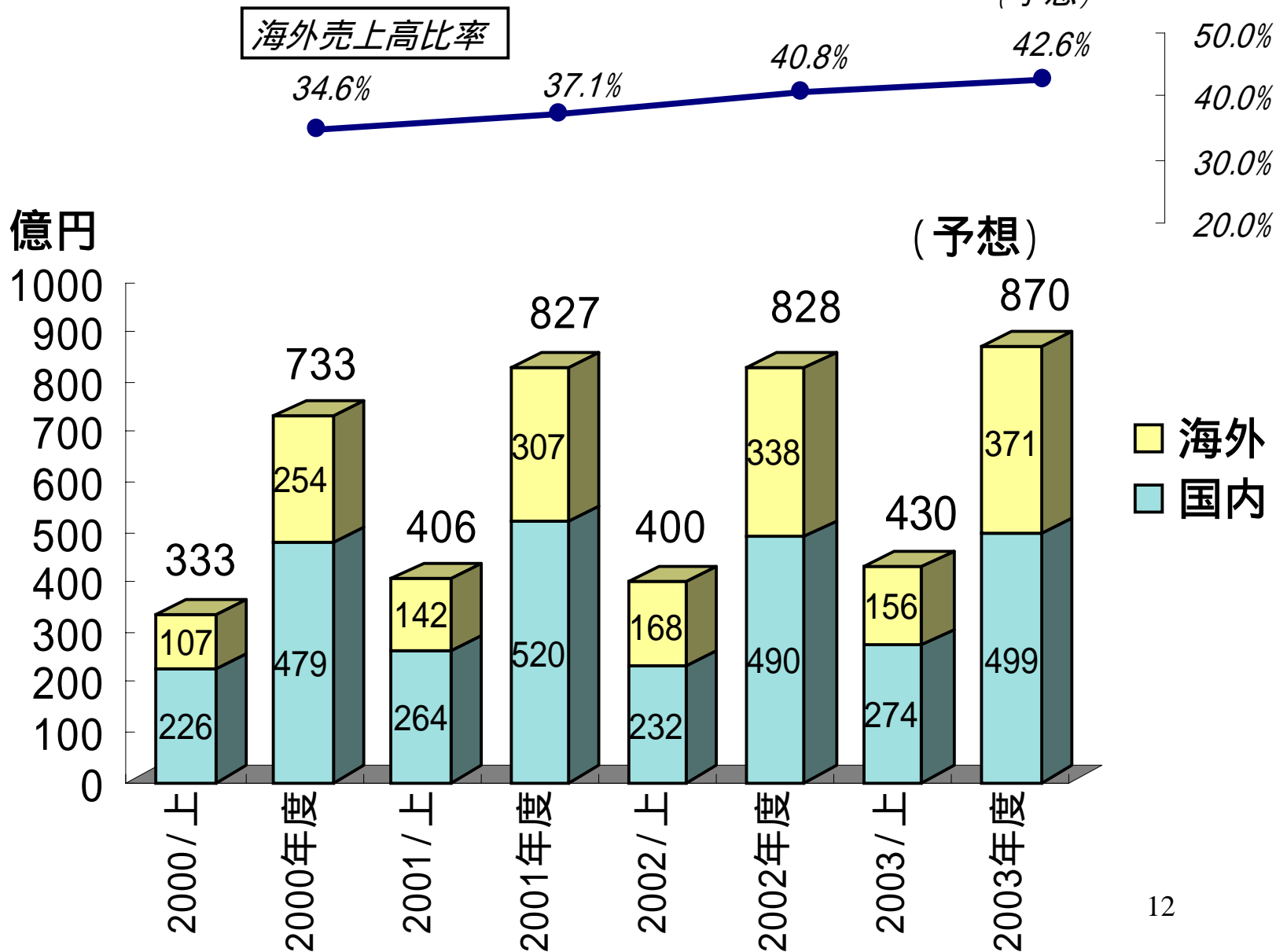


事業の種類別受注高と受注残(連結)



海外売上高と海外売上高比率(連結)

(予想)

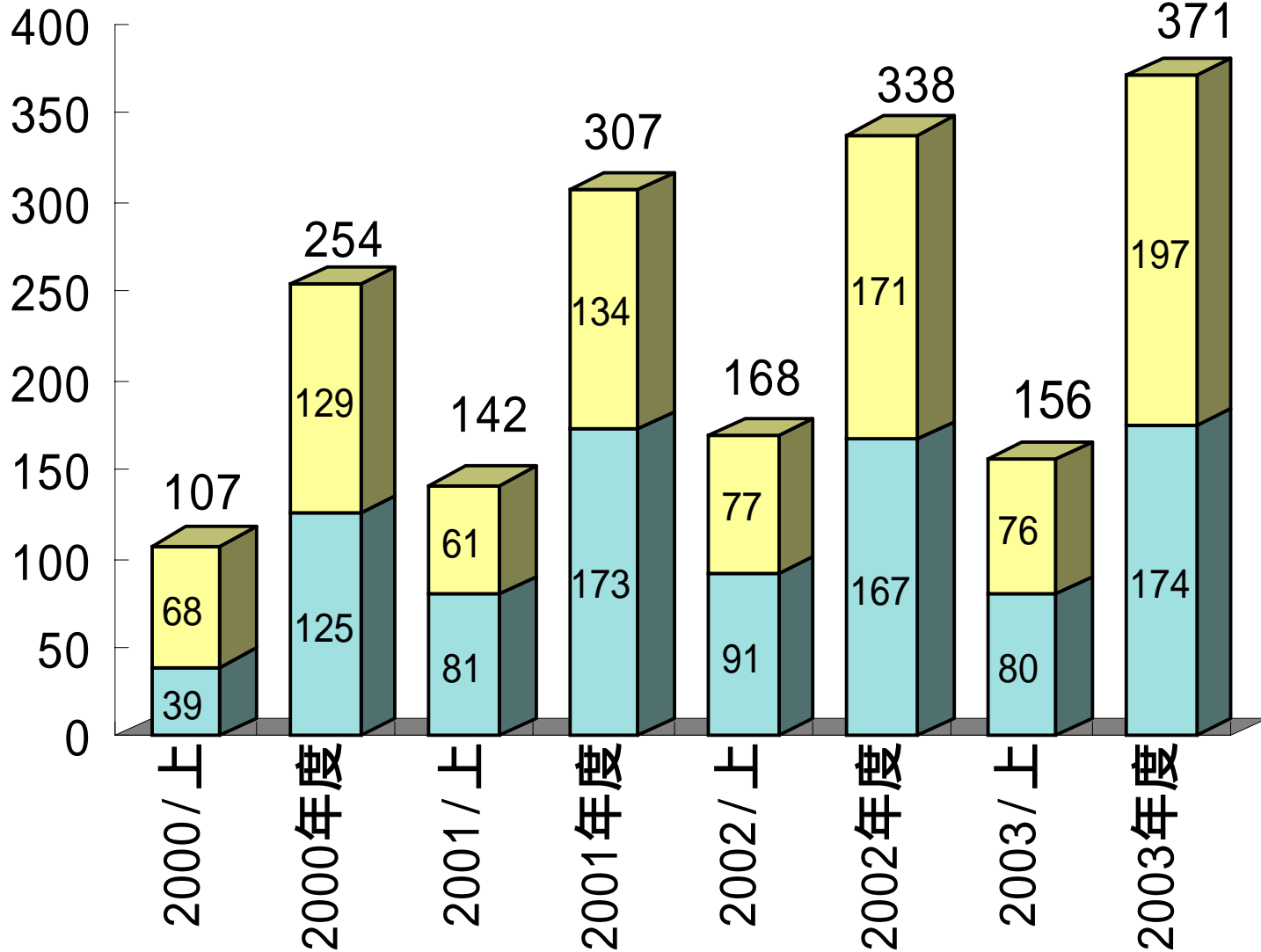


海外売上高(連結)

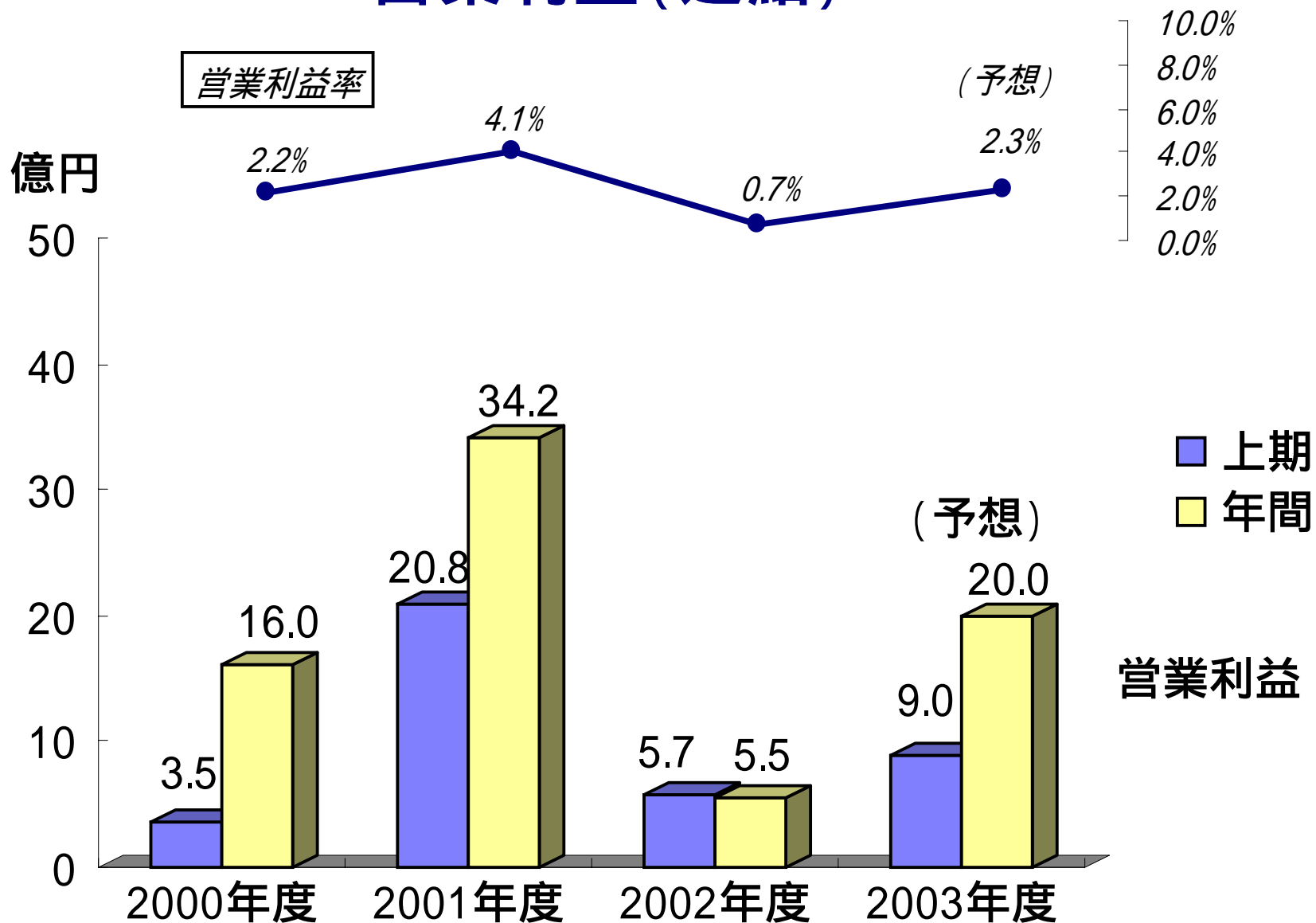
- 欧州・アジア他
- 北米・中南米

億円

(予想)

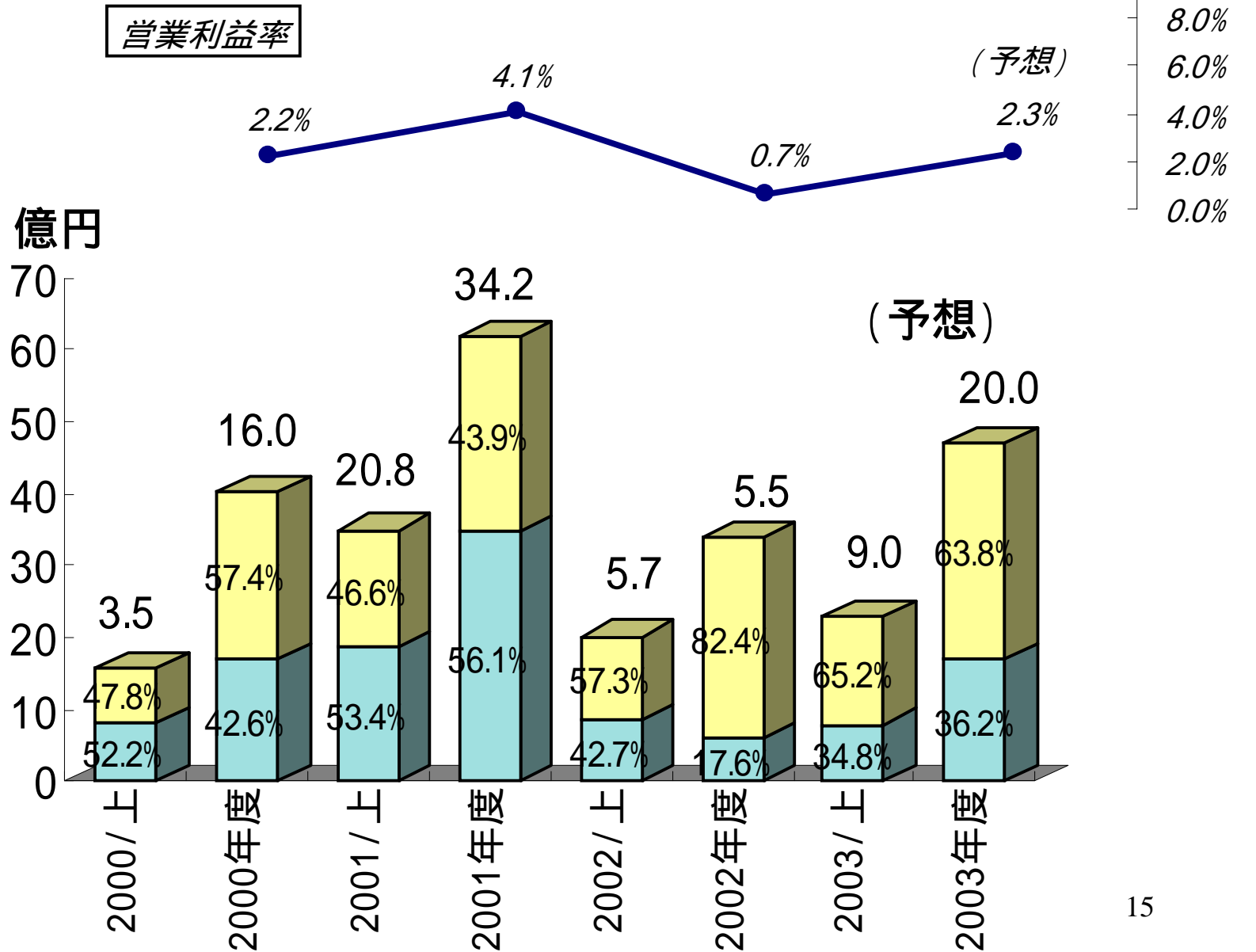


営業利益(連結)

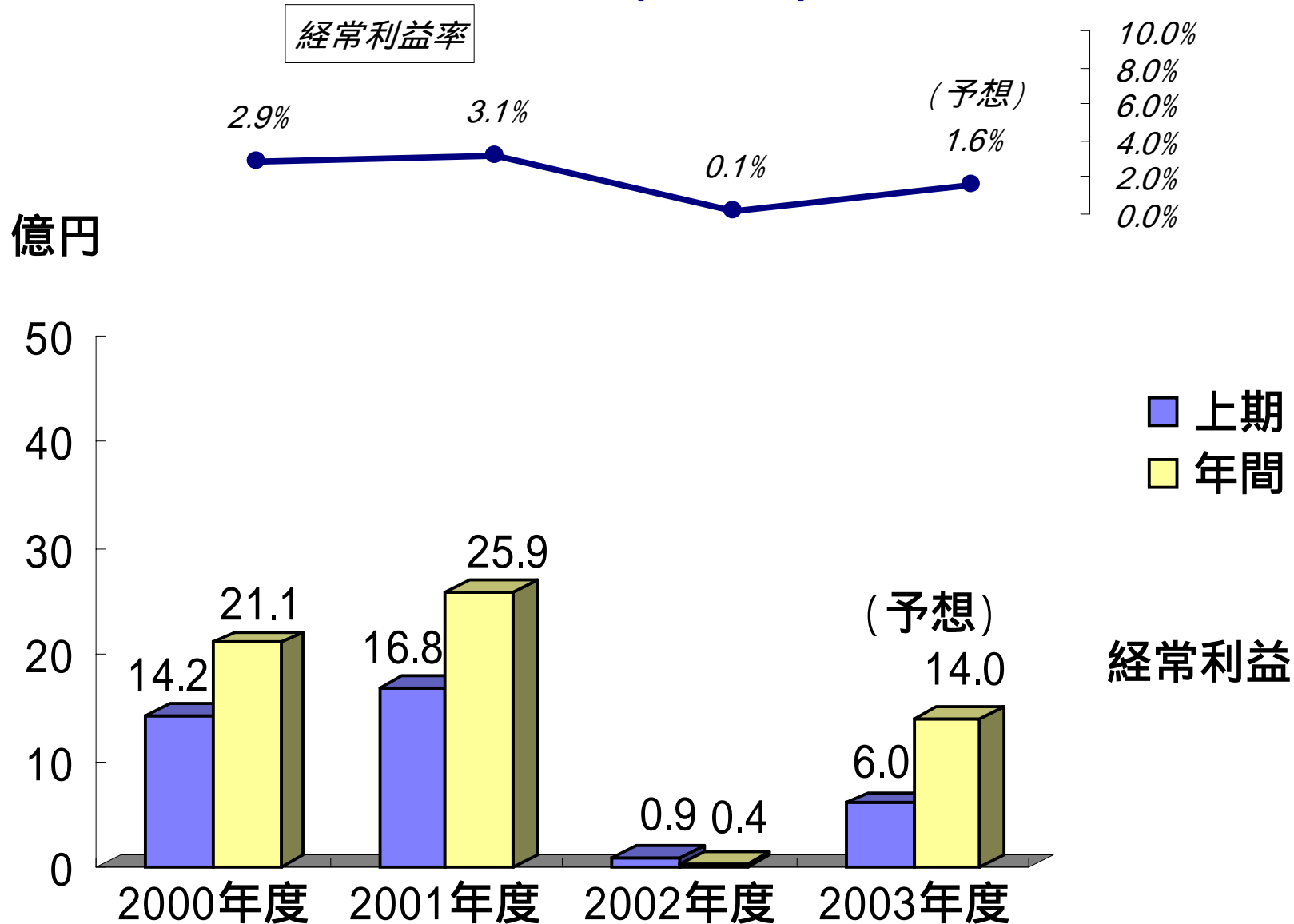


事業の種類別営業利益(連結)

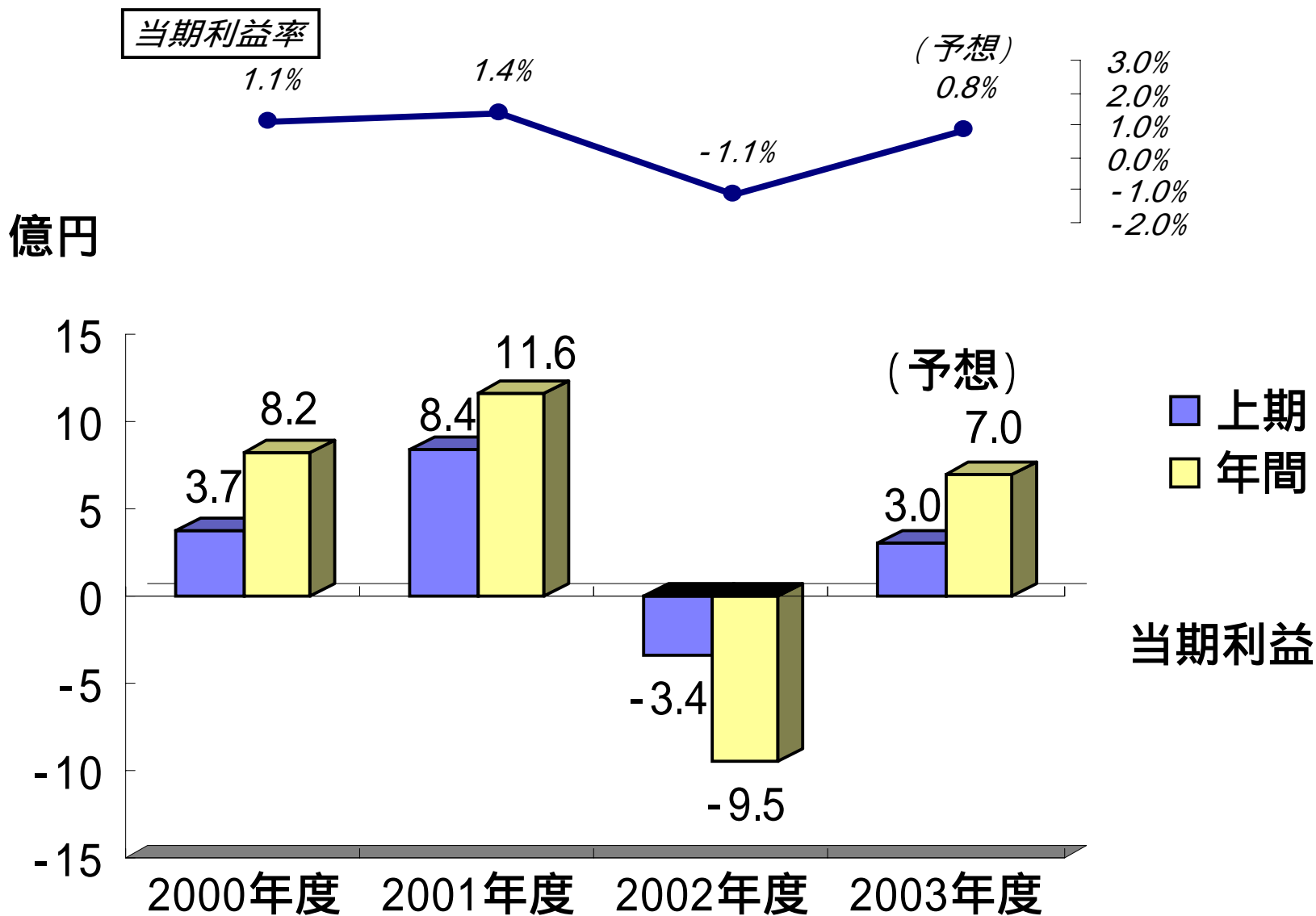
- 産業機器
- 理科学機器



經常利益(連結)

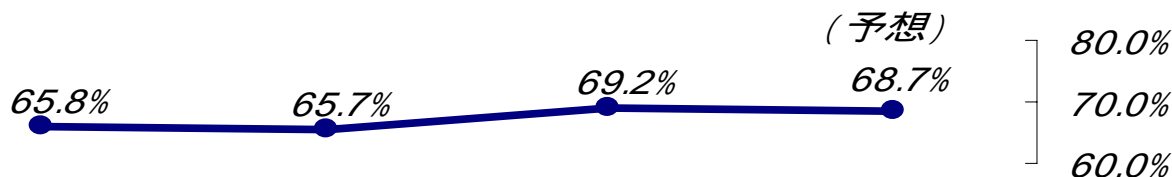


当期利益(連結)

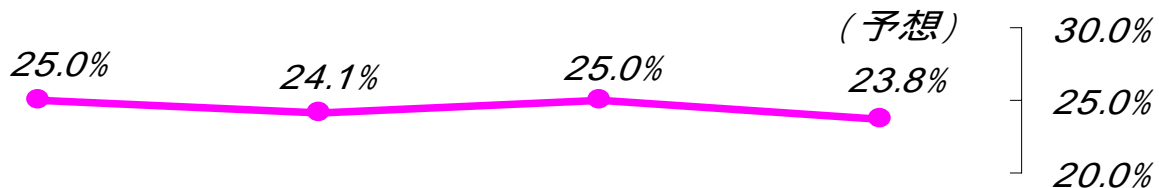


原価率と販管費率(連結)(研究開発費を除く)

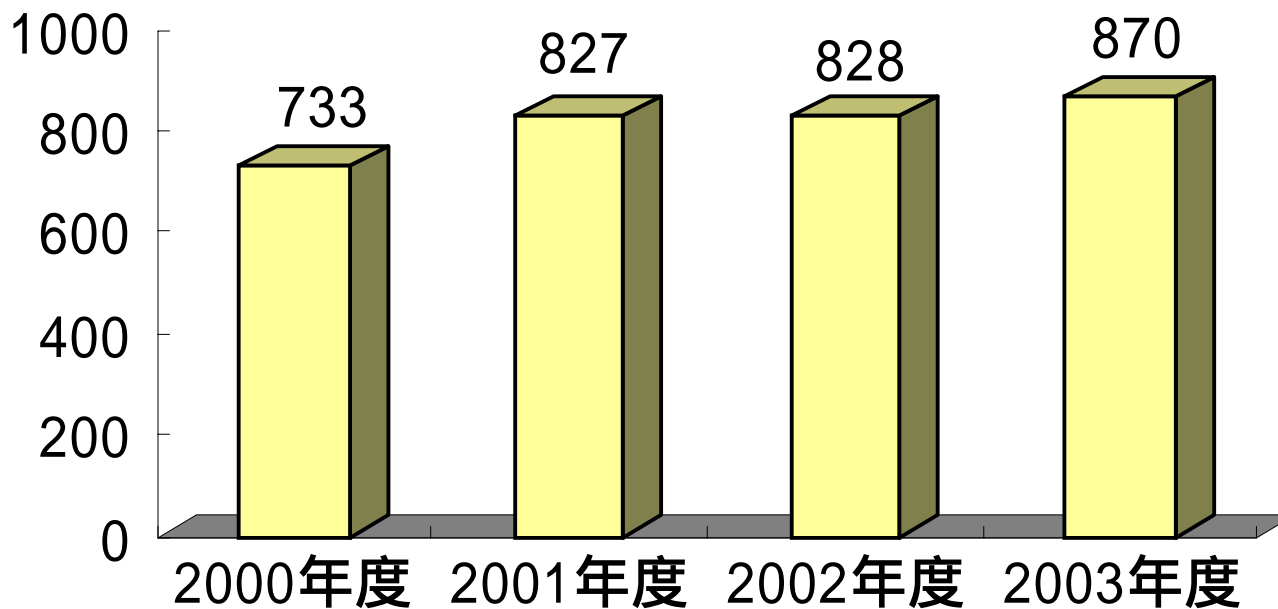
原価率



販売管理費率



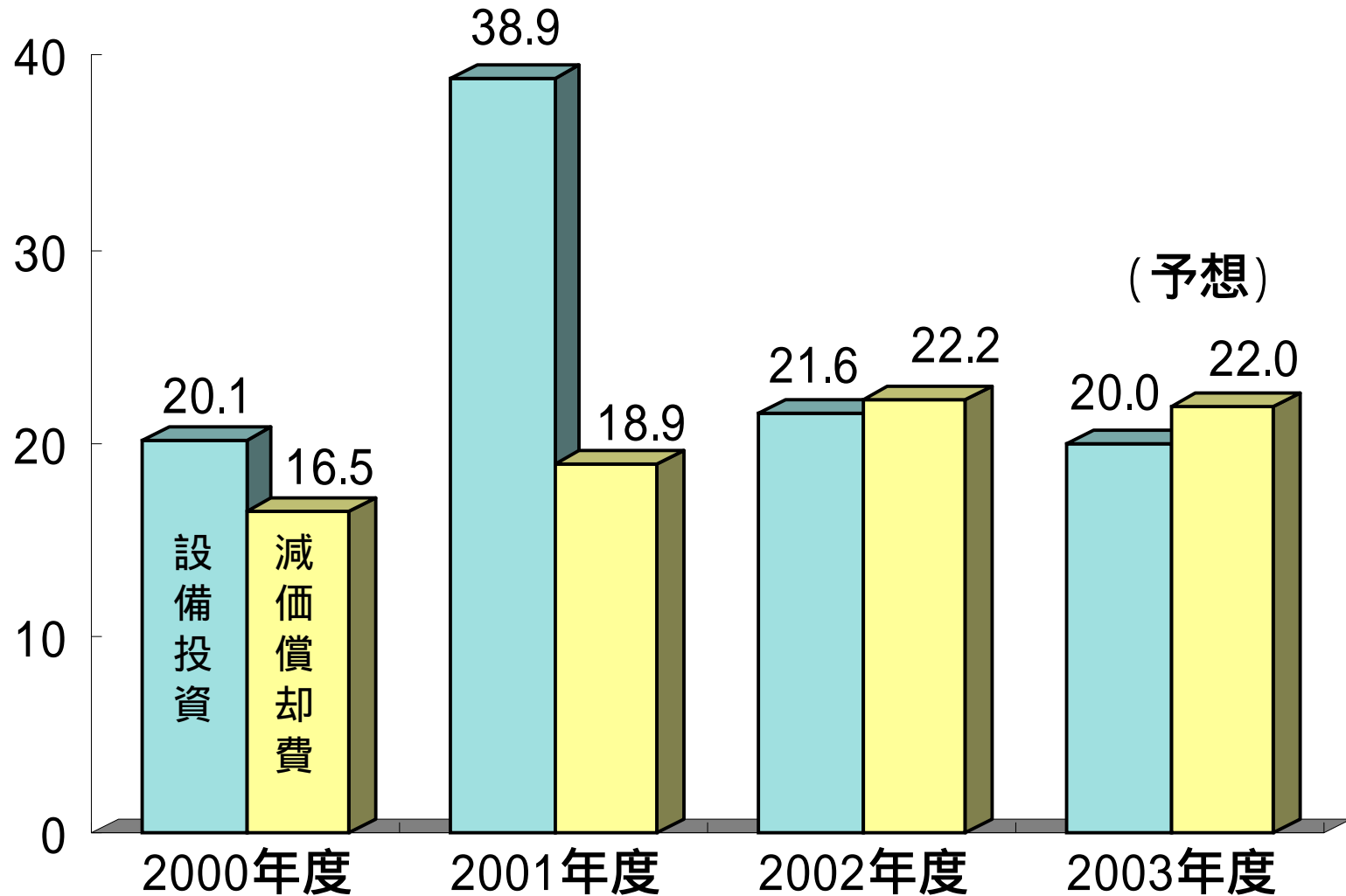
億円



売上

設備投資と減価償却費(連結)

億円

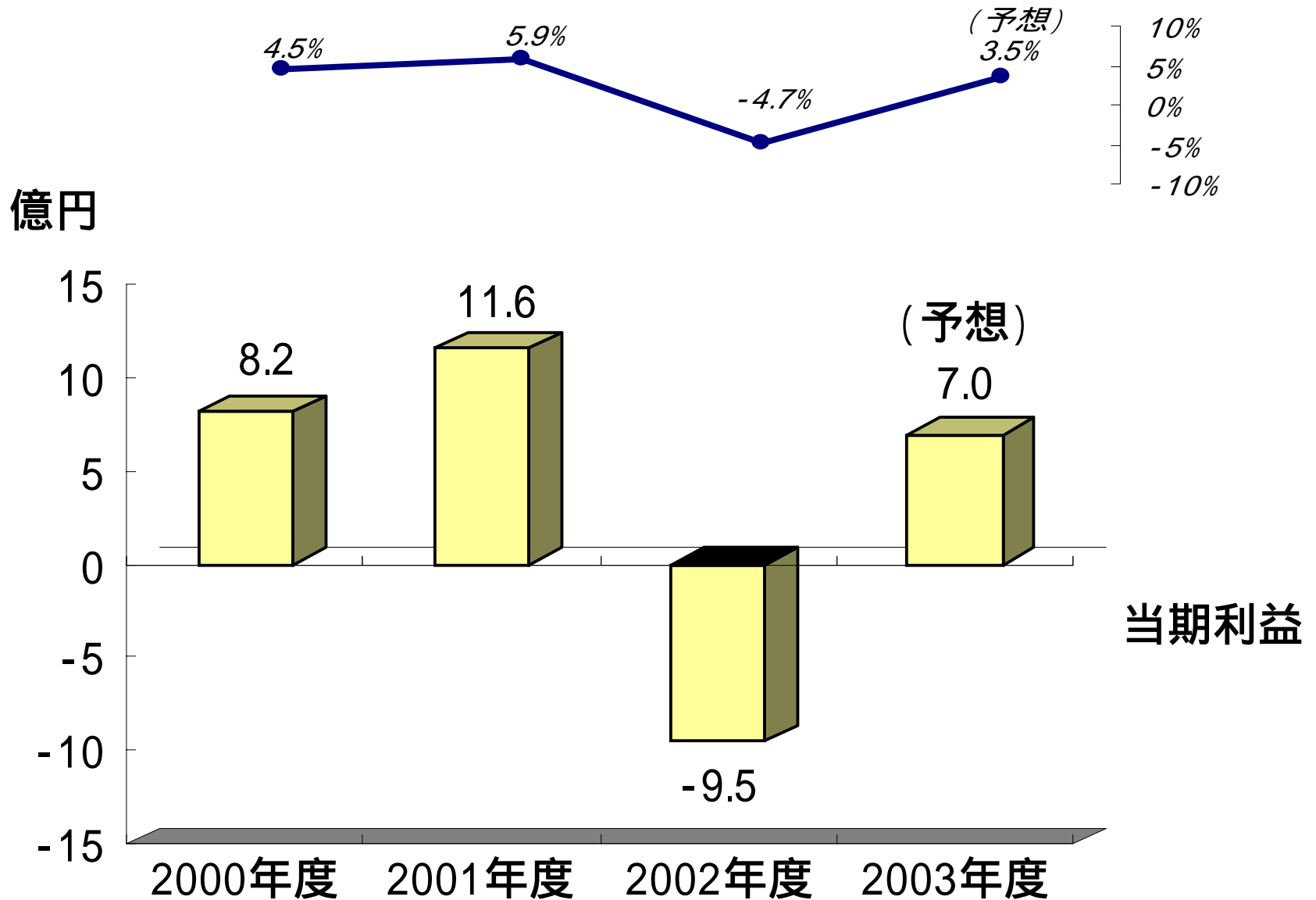


貸借対照表(連結)

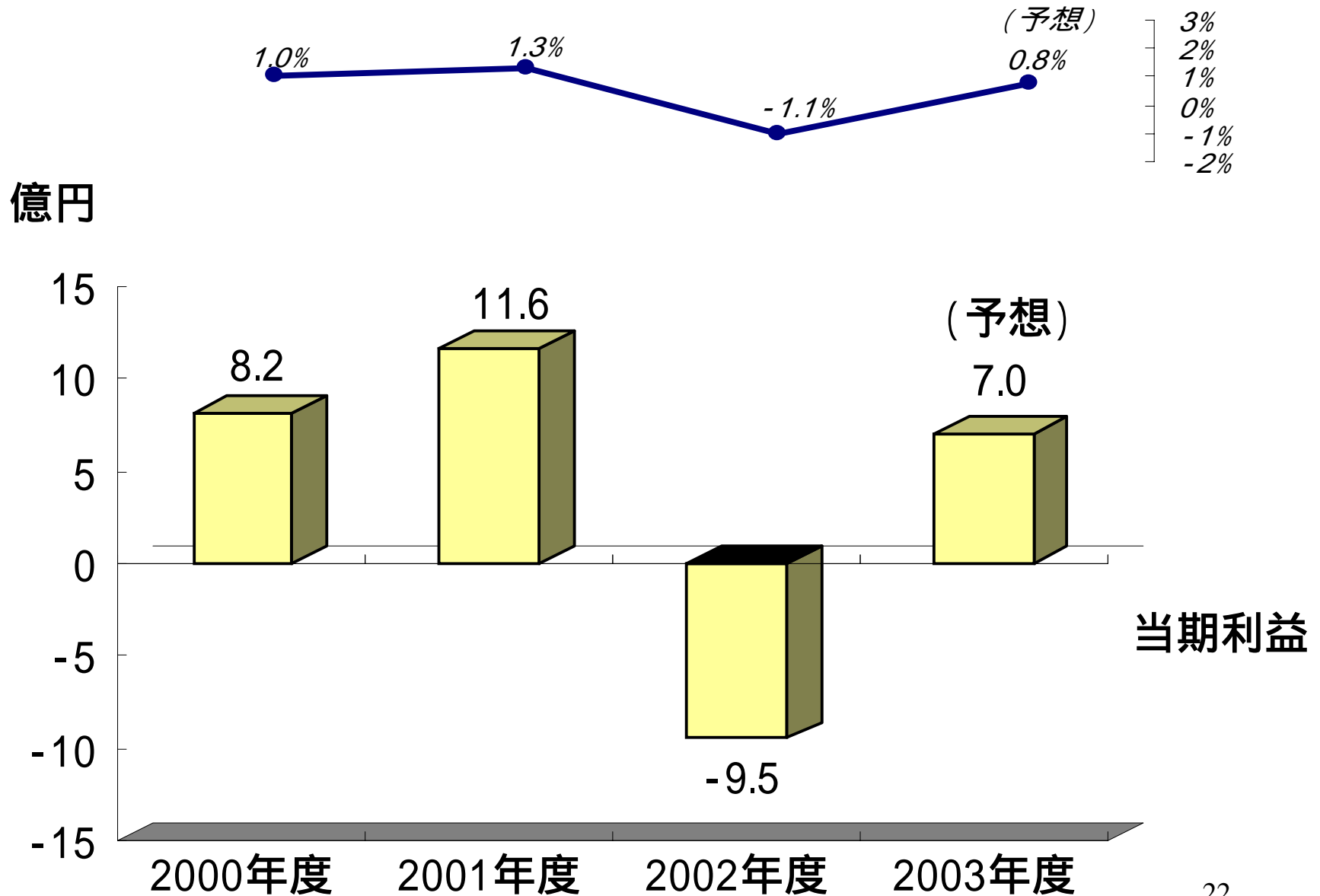
単位:億円

	2001年3月	2002年3月	2003年3月	2004年3月
流動資産	670	683	734	670
内売上債権	267	267	294	260
内棚卸資産	266	310	346	300
固定資産	176	195	196	200
総資産	846	880	931	870
流動負債	565	519	557	487
固定負債	96	151	178	178
株主資本	184	209	195	205
株主資本比率	21.8%	23.7%	21.0%	23.6%

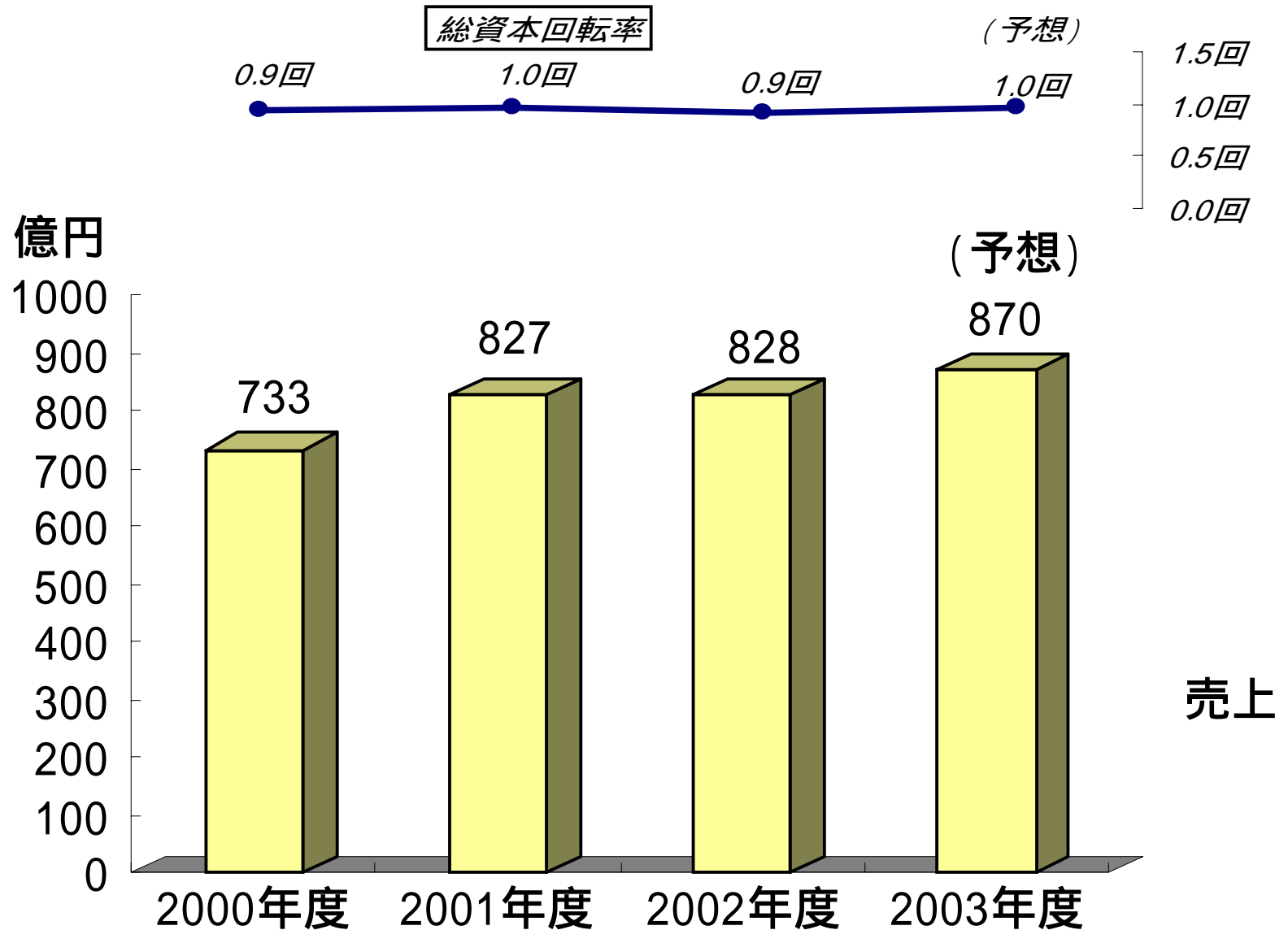
ROE [株主資本利益率] (連結)



ROA [総資産利益率] (連結)



総資本回転率(連結)



2002年度の総括 2003年度の経営基本方針 と重点施策

2003.5.30

JEOL 日本電子株式会社
代表取締役社長兼COO **原田 嘉晏**

2002年度の総括

(2002年度主な諸施策)

開発	電子顕微鏡等の新製品を市場投入
生産	国内外の新工場稼動、工期短縮
販売・サービス	アジア市場の強化・他社製品の販売提携
JBR業務改革	営業、技術設計、生産、管理の4大プロセス改革

➤ 総括

- ・ 構造改革の成果は着実に上げているが、市場環境の変化に迅速に対処し、安定した利益体質のため、諸改革の実効性を一段と高めることが急務

➤ 次期への課題

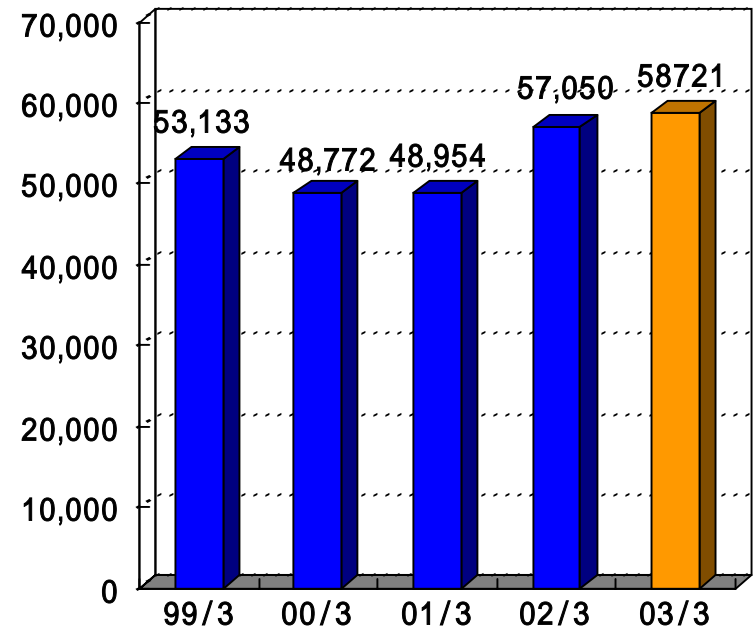
1. スピーディーな新製品開発
2. 東北地方・中国での生産拡大
3. 工期短縮(新生産方式への水平展開)と在庫削減
4. 理科学機器の製品価格下落の抑制と産業機器の受注拡大
5. コストダウン効果をさらに高める

市場動向

理科学機器

- 世界的なナノテクノロジー-研究の推進
 - ・ 日本: 厳しい経済状況の中でも
国の科学技術関係予算は
堅実な伸び
 - ・ 米国: 2003年710百万ドル
 - ・ 欧州: EU第6次研究計画
(2003年~2006年) 13億ユーロ
 - ・ アジア: 中国・台湾・韓国
- 経済活性化に向けた産学官連携の
研究開発プロジェクト始動
- 製品価格の下落傾向

売上高

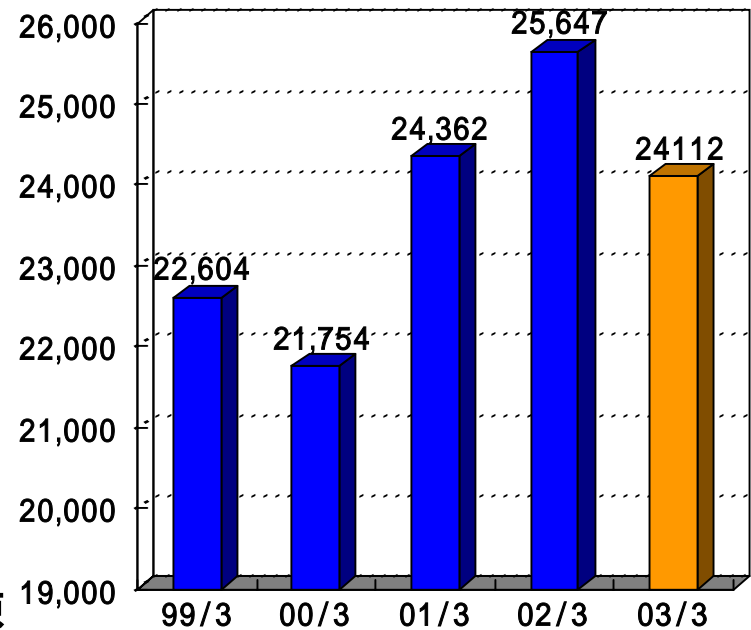


市場動向

産業機器

- 半導体関連：
 - ・ 半導体関連の設備投資の一部に回復の兆し
 - ・ 半導体メーカーの協業化
 - ・ 300mmウエハへの移行が進行
 - ・ 次世代技術研究の産学官の協力拡大
- 成膜関連：
 - ・ IT関連投資は回復せず低迷が続くが、デジタルカメラ、携帯電話の市場拡大
- 医用関連：
 - ・ バイオテクノロジーの国際的研究が加速
製薬、医療市場の急成長が期待される

売上高



2003年度の経営基本方針と重点施策

1. 基本方針

Bright Plan 1000に沿った構造改革を加速させ、JBR業務改革、JEOLグループサバイバル・プログラム(JSP)を展開し、V字形の業績回復を目指す。

2. 重点施策

生産改革の加速 - 生産機能の見直しと関係会社の機能見直し

- 商品供給機能、生産企画機能の強化・・・サプライチェーンセンター (SCC) の設立
- 日本電子アクティブ(株)に購買・調達機能の一元化
- 一貫生産ライン
 - ・日本電子(株)・・・最先端大型装置
 - ・日本電子クリエイティブ(株)・・・流れ製品
- サプライチェーンの効率改善と一貫生産による工期短縮、在庫削減
- 国内関係会社を現在の12社 10社に統廃合
 - ・日本電子エンジニアリング(株)と日本電子ライオニック(株)の統合
・・・開発力強化
 - ・日本電子データム(株)と日本電子ハイテック(株)の統合
・・・経営リソースの有効活用

受注確保と適正な製品販売価格の維持

➤ 受注確保

- ・主力製品の拡販: ナノテク市場での需要確保 (電子顕微鏡等)

環境市場商品の強化

(質量分析計、蛍光X線分析装置等)

医用機器市場での拡販 (生化学自動分析装置)

- ・新製品の市場への早期定着: 電子ビーム描画装置

- ・他社商品による海外市場の開拓

〔 集束イオンビーム試料作成装置 / 走査イオン顕微鏡、
100nmレチクルマスク用CD-SEM、ウエハ表面検査装置 〕

➤ 適正な販売価格の維持

{ 製品の競争力強化、トータルソリューションの提供
顧客満足度の向上を図り製品価格下落を抑える

戦略的な商品開発

- 戦略的な商品開発を行い、競争力ある、市場のニーズに応える新製品をスピーディーに開発
- 新製品開発によりナノテクノロジー・材料、半導体、バイオ、環境関連などの市場でシェアの伸長を目指す

コストダウンの推進と徹底した諸経費の削減

- 東北地域や中国での生産量を拡大
- シンガポールでの部材調達拠点の早期立ち上げ
- 徹底した諸経費および期間雇用者(100人)の削減

財務体質の強化

➤ 製品系列別の利益管理の徹底

- ・不採算系列の抜本的見直し

「選択と集中」を徹底し、不採算事業の整理を行う

➤ キャッシュ・フローの改善

- ・売掛金の早期回収:

売上債権期末残高02年度294億円 03年度260億円

- ・在庫削減:02年度346億円 03年度300億円

主要製品の受注・売上台数(推移と見通し)

- 電子顕微鏡総計(TEM + SEM)
- 電子顕微鏡(TEM)
- フィールドエミッション走査電子顕微鏡(FE-SEM)
- 汎用走査電子顕微鏡(除・FE-SEM)
- 核磁気共鳴装置(NM)
- 質量分析計(MS)
- 電子ビーム描画装置(EB)
- 生化学自動分析装置(BM)

➤ 電子顕微鏡 (TEM・SEM) 総計

(単位:台)

	2000年度	2001年度	2002年度 計画	2002年度 実績	2003年度 計画
受注	620	640	680	680	700
売上	610	670	690	640	680

➤ 電子顕微鏡 (TEM)

(単位:台)

	00年度	01年度	02年度計画	02年度実績	03年度計画
受注	90	130	110	160	140
売上	110	120	150	130	150

➤ フィールド・エミッション走査電子顕微鏡 (FE-SEM)

	00年度	01年度	02年度計画	02年度実績	03年度計画
受注	160	120	160	130	150
売上	120	170	120	120	150

➤ 汎用走査電子顕微鏡 (除くFE-SEM)

	00年度	01年度	02年度計画	02年度実績	03年度計画
受注	370	390	410	390	410
売上	380	380	420	390	380

➤ **核磁気共鳴装置(NMR) - 超伝導磁石 + 永久磁石タイプ -**
 (単位:台)

	00年度	01年度	02年度計画	02年度実績	03年度計画
受注	120	130	160	130	130
売上	120	100	140	140	120

➤ **質量分析計(MS) - 磁場形 + 飛行時間形 -**

	00年度	01年度	02年度計画	02年度実績	03年度計画
受注	120	110	120	90	110
売上	120	120	110	100	110

➤ マスク描画装置 (JBX-9000MV / 3030シリーズ)

(単位:台)

	00年度	01年度	02年度計画	02年度実績	03年度計画
受注	5	8	8	5	5
売上	4	6	7	4	6

➤ 生化学自動分析装置 (JCA-BMシリーズ)

	00年度	01年度	02年度計画	02年度実績	03年度計画
受注	250	260	270	290	380
売上	260	230	300	290	340

資料取扱上のご注意

本プレゼンテーション資料及び弊社代表者が口頭にて提供する情報には、現時点で把握可能な情報から判断した、仮定及び所信に基づく記述が含まれています。

今後、経済情勢をはじめ半導体市況や研究開発投資など、弊社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、異なったものとなる可能性が否定できないことをご承知おき願います。

日本電子株式会社(JEOL Ltd.)は、本プレゼンテーションに記載された内容を更新する義務を負っておりません。